

風景の国宝！ 「重要文化的景観」を探る



気候風土が違っていると
暮らしの風景も違う！

島根県奥出雲町

たたら製鉄と棚田



砂鉄を取るために山を削り、
のちに棚田となった

沖縄県

今帰仁村のフクギ



防砂、防風のために屋敷林
としてフクギが植えられている



そもそも、「文化的景観」ってどんな景観？

海に面していたり、山に囲まれていたり、川が流れていたり、日本には様々な地理的特徴があり、四季がはっきりしています。こうしたなか、地域に住む人々はそれぞれの土地の特徴を上手く活かした生業を営み、暮らしてきました。

各地域の地形や気候風土のなかで人々が暮らし、それが積み重なることで生まれた地域特有の生業の景観を「文化的景観」といいます。

てくてく和束

第四号
(令和七年夏)

発行
和束町役場まちづくり応援課
0774-78-3002
「てくてく和束」は文化的景観の調査で発見した
地域の特徴（和束らしさ）を紹介する広報紙です。

そこで和束を見てみると



山に囲まれた和束盆地のなかで、斜面地を活かして茶園を広げ、和束川の近くでは水田耕作をし、集落が展開する姿はまさに、「文化的景観」であると言えます。

てくてく和束

く 景観だより く

和束町役場まちづくり応援課

重要文化的景観とは？

日本各地に文化的景観はあります。

その中で、**地域の歴史、自然、暮らしの特徴**がよくわかり、日本の自然豊かな暮らしを代表する**文化的景観**を国の文化財として守り、後世に引き継ぐ取り組みを進めます。

それが「**重要文化的景観**」です。重要文化的景観はその地域らしく変化することは許容する文化財です。

重要文化的景観は「風景の国宝」と呼ばれており、全国で73カ所が選定されています。

和束町も国宝級とすることができるよう文化的景観が広がっており、調査を実施しました。そして「重要文化的景観」選定に向け、本格的に取り組みを進めています。

まずは京都府景観資産に登録されている原山・釜塚・白栖・石寺・撰原の五地区から動き始めています。

選定による動き

重要文化的景観を目指す過程において、その地域の生業や暮らし、現在に至るまでの地域の歴史を調査研究します。それにより、地域がどのような歩みを重ねてきたのかが明確になり、文化的な基盤がしっかりと出来上がります。

そして、国の文化財として選定された、というブランド化と知名度の向上が期待できます。加えて、文化財としての文化的景観を守っていくための国からの補助支援があります。

また、文化財として生業や暮らしの景観を引き継ぐため、ソーラーパネルを設置するような土地の開発行為等は文化庁長官に届出をする必要があります。

詳細や他の地域の事例などは、次号以降でお伝えします。

暮らしの風景を「和束の強み」として磨いていく！

出張！てくてくコーナー

七月十三日 原山のおおかわさん（大川神社）をお参りました！

祭礼の前の産護司神社と大川神社の掃除に同行し、始めて大川神社にたどり着くことができました。小山の山頂にありながら大切にされています。

・ウェブページを作成しました！



当広報紙「てくてく和束」のアーカイブ場所として、和束町役場HPに専用ページを作成しました。検索サイトで「てくてく和束」と検索すると出てきます。このQRコードからも見る事ができるのでぜひ。

お知らせ



みなさま、「てくてく和束」を閲覧いただきありがとうございます。

今後も文化的景観の補足調査を実施する予定です。ご協力のほど、お願いいたします。引き続き和束の暮らしについて情報収集中ですので問合せはまちづくり応援課岩本まで。